

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 4 月 1 日作成)

小委員会名	住宅計画小委員会	主 査 名：高田光雄 就任年月：2008 年 4 月																
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会(住宅計画運営委員会)	委員長名：布野修司 主 査 名：高田光雄																
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2012 年 3 月																	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>本小委員会は、「住居・住宅地(大会発表論文分類による)」を対象とした課題を検討することを目的とし、下記の重要かつ緊急性のある課題を検討する。</p> <p>最近 10 年間の集合住宅計画の調査研究のまとめと出版 超高層住宅の将来問題に関する研究 住宅系研究論文報告会の実施 住宅研究における若手研究者の論文発表会の開催 住宅関連学会、及び設計事務所研究会等との意見交換</p>																	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：あり</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">高田光雄(京都大学)</td> <td style="width: 50%;">鈴木雅之(千葉大学)</td> </tr> <tr> <td>初見学(東京理科大学)</td> <td>小林秀樹(千葉大学)</td> </tr> <tr> <td>篠崎正彦(東洋大学)</td> <td>山本理(長谷工総合研究所)</td> </tr> <tr> <td>川崎直宏(市浦都市開発建築コンサルタンツ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>園田真理子(明治大学)</td> <td>森保洋之(広島工業大学)</td> </tr> <tr> <td>瀬渡章子(奈良女子大学)</td> <td>田中友章(明治大学)</td> </tr> <tr> <td>定行まり子(日本女子大学)</td> <td>佐野こずえ(近畿大学)</td> </tr> <tr> <td>山口健太郎(近畿大学)</td> <td>高井宏之(三重大学)</td> </tr> </table>		高田光雄(京都大学)	鈴木雅之(千葉大学)	初見学(東京理科大学)	小林秀樹(千葉大学)	篠崎正彦(東洋大学)	山本理(長谷工総合研究所)	川崎直宏(市浦都市開発建築コンサルタンツ)		園田真理子(明治大学)	森保洋之(広島工業大学)	瀬渡章子(奈良女子大学)	田中友章(明治大学)	定行まり子(日本女子大学)	佐野こずえ(近畿大学)	山口健太郎(近畿大学)	高井宏之(三重大学)
高田光雄(京都大学)	鈴木雅之(千葉大学)																	
初見学(東京理科大学)	小林秀樹(千葉大学)																	
篠崎正彦(東洋大学)	山本理(長谷工総合研究所)																	
川崎直宏(市浦都市開発建築コンサルタンツ)																		
園田真理子(明治大学)	森保洋之(広島工業大学)																	
瀬渡章子(奈良女子大学)	田中友章(明治大学)																	
定行まり子(日本女子大学)	佐野こずえ(近畿大学)																	
山口健太郎(近畿大学)	高井宏之(三重大学)																	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>超高層の将来問題検討WG：超高層住宅の将来問題を明らかにし、多数の超高層住宅の更新に関する技術と関連する社会制度の準備を検討する。</p> <p>出版WG：「事例で読む現代集合住宅のデザイン」PART 2 を編集、出版する。</p>																	
2008 年度予算	195,000 円	ホームページ公開の有無：あり 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s8/top.htm																

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	<p>1. 第 3 回住宅系研究報告会 参加者数 50 名 資料名：第 3 回住宅系研究報告論文集 (建築経済・都市計画・農村計画と共同開催)</p> <p>2. 少子高齢社会における家族と住まい NEXT21 における新たな試み 参加者数 50 名 資料名：少子高齢社会における家族と住まい</p>
大会研究集会	

対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「事例で読む現代集合住宅のデザイン」PART 2の構成案・目次案を完成させた。 2. 超高層住宅の将来問題WGを立ち上げ、関連する業界関係者のヒアリングを行い、超高層住宅の将来問題に係る条件を整理した。 3. 第3回住宅系研究報告会を開催し、住宅系研究の討議、交流を促進した。 4. 若手研究者1名(博士課程学生)の論文発表会を開催した。
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当初の活動計画通りに活動が進められており、特に問題はない 2. 3.

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。